

# 鳥取県中部で最大震度6弱 ～続いていた群発地震も影響あり？～

# 防災新聞

発行者

関西ボラコン株式会社

兵庫県丹波市  
山南町草部448-1  
電話 06-6467-8333  
ホームページ  
bousai-ansin.com

 「いいね！」  
お願いします

<https://www.facebook.com/ansin.bousai/>



◆鳥取県中部で震度6  
10月21日の14時7分頃に鳥取県中部を震源として発生した「鳥取県中部地震」。地震の規模はマグニチュード6.6、震源の深さは11kmでした。この地震で、鳥取県の倉吉市、湯梨浜町、北栄町で最大震度6弱を観測しました。

◆過去にも震度6が2回  
あまり知られていないかもしれませんが、過去にも二度震度6を超える地震が発生しています。一つは、1943年に発生した「鳥取地震」と呼ばれるものです。この地震では鳥取市で震度6を観測しており、1945年の敗戦前後にかけて、

4年連続で1000名を超える死者を出した4大地震（東南海地震、三河地震、南海地震）の一つであると言われていいます。もう一つが、2000年に発生した「鳥取県西部地震」と呼ばれるものです。この地震は、1996年の震度階級改正以来初めて震度6強を記録したものでした。

地震の揺れによって崩れた建物。21日の地震の後に発生した震度1以上の揺れは、11月で40回を超えた。

今月21日の地震で大きな被害を受けた、国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選ばれている鳥取県倉吉市の「白壁土蔵群」。



◆地震被害状況  
地震発生からおよそ3週間が経過した時点では、自治体が調査を進めた結果、被害が確認された住宅は1万1570棟で、このうち全半壊した住宅は89棟に上ることが確認されています。  
鳥取県が発表している情報では、この地震での死者は出ておらず、怪我をした人が十数名とのことです。



地震によって被害を受けた倉吉市の様子 (Twitterより引用)



# 地震による「風評被害」 ～宿泊施設キャンセル約1万人～



とっとり「元気」とアピールする平井知事や鳥取県の関係者  
引用：観光経済新聞 (<http://www.kankokeizai.com/>)

◆「鳥取が危険」との誤認  
鳥取県の平井伸治知事は、今回発生した地震が、メディアで「鳥取地震」と報道されていたこともあり、鳥取県全体が危険であるという誤認を招き、「風評被害」を受けてしまっているとして、「『鳥取県中部地震』と呼んではほしい」と呼びかけています。県中部以外は大きな被害がなかったものの、鳥取県全体で観光客が減少しているようです。県のまとめによると、26日時点で県内の旅館・ホテルのキャンセル数は9476人で、そのうちの半分は県中部以外の地域でした。

◆鳥取砂丘や水木ロードも  
鳥取県中部はもろろんのことですが、県東部の鳥取市にある鳥取砂丘や、県西部の境港市にある水木しげるロードでも、観光客の減少が見られているようです。  
鳥取砂丘にある、世界から集まった砂像彫刻家が創る砂像の展示施設・砂の美術館では、地震による砂像への被害は無かったと話しています。しかし、地震後の土日2日間の来場者は約25000人で、昨年と比べると来場者が半分にまで減少していました。  
漫画家の水木しげる氏の故郷である境港市の水木しげるロードは、地震のあった21日からの6日間で観光客が前年比4割減の約2万2千人でした。境港市観光協会の柁田知身会長（75）は、「鳥取地震と呼ばれるが、一番ひどいのは鳥取県の中部。21日はこっちもドンと来たけど、それ以降は体感じる余震はほとんどない。1週間以内は大きな地震があるかもしれないと言われたら、お客さんがこないのはしょうがない部分もある。だけど、こういうイメージがいつごろ回復するの心配です。」と述べています。

◆初競り「県のPRに」  
宿泊客のキャンセルが相次ぐ中、県の関係者は観光客誘致の為に働きかけています。鳥取県では、11月6日がズワイガニ漁の解禁日となっており、観光客書き入れ時への影響を心配する声もあがっていました。11月7日の朝冬の味覚を代表する松葉ガニ（ズワイガニの雄）の初競りが鳥取市の県漁協賀露支所で行われ、過去最高の1匹130万円で競り落とされました。「カニのシーズン」に宿泊キャンセルが相次いだ中、競り落とされた中村商店（鳥取市）の中村俊介社長（48）は、「（鳥取のカニを）PRできれば」と話しています。



130万円の値が付いたズワイガニ「松葉ガニ」。従来の値段の記録（70万円）を大幅に更新。

# 防災新聞

発行者

関西ボラコン株式会社

兵庫県丹波市  
山南町草部448-1  
電話 06-6467-8333  
ホームページ  
bousai-ansin.com

「いいね！」  
お願いします

<https://www.facebook.com/ansin.bousai/>



## 災害時の豆知識～vol.29～

### 体温の調節方法

夏場や冬場に体温調節する方法をしっかりと覚えておきましょう。

【脇の下を温める・冷やす】

寒い時→約60℃のお湯を入れたペットボトルを脇の下に挟む  
暑い時→保冷剤にタオルなどを巻き、脇の下に挟む

【首を温める・冷やす】

寒い時→首にマフラーやタオルを巻く  
暑い時→首の後ろに保冷剤を当て、タオルなどを巻く

【尾てい骨の上を温める】

寒い時にカイロが入手できた場合は、尾てい骨の上に貼ると、体全体が暖くなる



# 避難所生活での苦しさ ～避難所では寒さとの戦い～



2011/3/11 雪の降る中捜索活動をする人々



体育館の床は固くて冷たい

◆助かった後にも要注意  
阪神淡路大震災が発生したのは1月17日、そして東日本大震災が発生したのは3月11日です。この2つの地震では、命が助かり、避難することができた人々を襲ったのが「寒さ」でした。まだ私達の記憶にも新しい4月14・16日の熊本地震でも、夜には寒さに苦しむ人々が大勢いました。

もちろん、地震は冬場だけに発生するというわけではなく、夏場にも大きな地震が発生したという記録も残っています。しかし、被災者の方々の声を聞くと、やはり冬場の寒さ対策をしておくことの重要性がわかります。  
ここで注意しておかなければならないのは、地震が発生する時間が昼の温かい時間であっても、地震の被害によって電気やガスが使えない状態になる可能性があるということです。電気やガスが使用できない自宅や避難所で、夜から明け方にかけて過ごすということを想定した場合には、

寒さ対策がどれほど重要であるかが想像できるのではないのでしょうか。  
◆電気が使えても注意  
仮に地震後に電気が使えるようになったとしても、電気を使用することによる通電火災にも注意が必要です。(通電火災に関しては防災新聞9号参照)  
電氣を使用するということは、火災が発生する危険性があります。停電から復旧して自宅で電気が使えるようになった場合には、断線したコードやヒーターに衣類が触れている際に火災が発生するケースが多いです。避難所では、被災した自宅から毛布や衣類、暖房器具などを持ち込んで、電気容量の問題や火災の危険性もあることから使用できない器具もあります。  
そうは言っても、着の身着のまま避難所を訪れた場合、冬場の厳しい寒さに耐え忍ぶのはとても厳しいでしょう。そこで、冬場の防災グッズとして準備しておくべきものを次のページで紹介いたします。紹介しているものはあくまで参考程度なので、自分自身で必要なもの、不要なものの判断を、準備するようにして下さい。

# 防災新聞

発行者

関西ボロン株式会社

兵庫県丹波市  
山南町草部448-1

電話 06-6467-8333

ホームページ

bousai-ansin.com



「いいね！」  
お願いします

<https://www.facebook.com/ansin.bousai/>



## 自宅で出来る 防災セミナー

各地で開催決定！！

阪神淡路大震災、東日本大震災を体験した  
防災士が語る、巨大地震への備え方



震災経験者である防災士が自らの経験をもとに語る、巨大地震への備えについてのセミナーを順次開催致します。

2016年11月19日に神戸三宮にて開催され、今後各地で開催して参ります。

詳細はお問い合わせ下さい！



# 寒さ対策に役立つグッズ ～持ち運びも想定しておく～

# 防災新聞

◆ **普段の防寒対策も役立つ**  
 冬場に地震が発生した際に必要となる寒さ対策ですが、防災用にすべてを一から備える必要があるわけではありません。私達が普段から使用している防寒グッズが災害時にも役に立ちます。  
 具体的には、厚手の靴下や保温性のある下着（ユニクロのヒートテックなど）、手袋、ジャンパー、ニット帽、使い捨てカイロなどです。これらのものを普段から用意しておくことで、避難生活でも寒さを和らげることが出来ます。しかし、避難生活では何日間も洗濯をすることができません。更には、雨や雪で濡れてしまうこともあるかもしれません。そんな時のために、シャツや靴下は着替えの分も用意しておくとい良いでしょう。  
 ◆ **持ち運びに便利なものを**  
 災害時には、使えるものを確保するためにたくさんの物を持ち出そうとする人がいますが、避難の時邪魔になってしまったり、避難所生活で無駄なスペースを取って周囲に迷惑をかけてしまったりするため、あまり多くの物を準備しておく意味がありません。避難する際は最低限の物を持ち出ししましょう。

## 普段使っているものでも、地震時の防寒対策に



## 地震時に役立つ防災グッズ



上の図以外にも、毛布や寝袋など、あったほうが良いものもたくさんありますが、非常用持ち出し袋に入れてとっさに持ち出して避難することを考えると、なるべくかさばるものがないものが良いでしょう。

図の①は、アルミ製のブランケットと、同じくアルミ製の簡易寝袋です。薄くコンパクトなため、持ち運びが大変楽ですが、保温効果はかなり高いので、家族全員分揃えておいても良いでしょう。

②は、食べ物や飲み物を温める際に使います。この商品は、火を使うことなく、水さえあれば様々なものを温めることができるため、家族で数日間使用することを想定して準備しておきましょう。

③は、ラップと新聞紙を使って腹巻きを作る方法です。体温を逃さないようにするために効果があります。新聞紙は、クシャクシャにして服の下に入れることで保温効果を発揮したり、避難所で毛布が支給された場合には、毛布の上にくくことで保温効果を高めたり、様々な面で使用することが出来ます。

ここで紹介したものを使つたとしても、避難所の硬い床の上に直接寝ると体温が逃げてしまうため、厳しい寒さとなりません。空気を入れて膨らませる簡易ベッドなどがあれば、空気の層で体温が逃げることを防いでくれるため、温かく眠ることが出来ます。

発行者

関西ボラコン株式会社

兵庫県丹波市  
山南町草部448-1

電話 06-6467-8333

ホームページ

bousai-ansin.com



「いいね！」  
お願いします

<https://www.facebook.com/ansin.bousai/>



# 防災新聞

発行者

関西ポラコン株式会社

兵庫県丹波市  
山南町草部448-1

電話 06-6467-8333

ホームページ

bousai-ansin.com



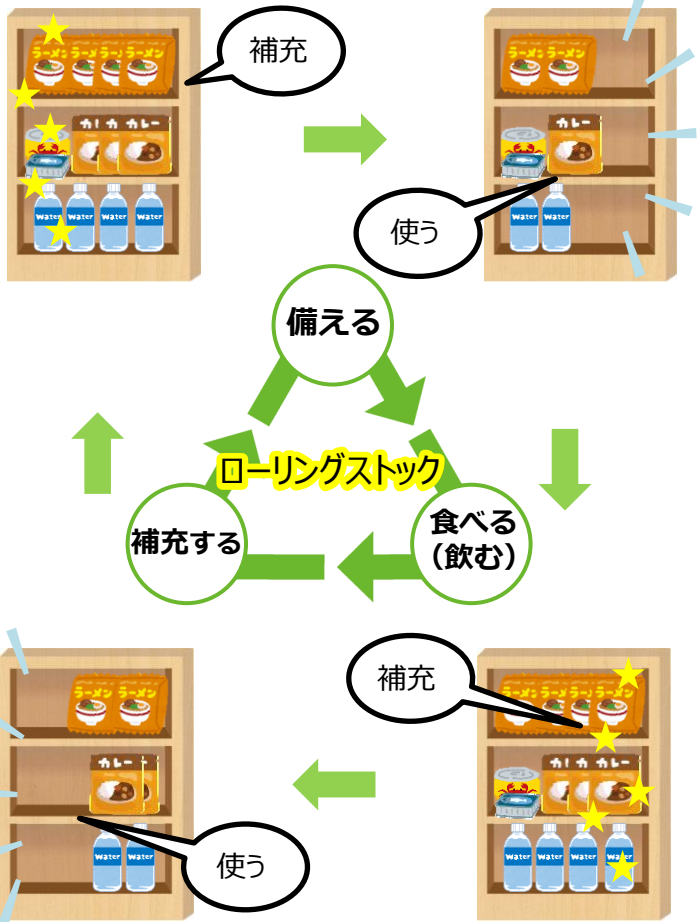
「いいね！」  
お願いします

<https://www.facebook.com/ansin.bousai/>



## 「非常時だけ」ではダメ ～日頃から無駄のない備蓄を～

### 月1回は「非常食ごはん」の日



「毎月第2土曜は非常食の日」などのように、  
非常食を食べる日を設定しましょう

#### ◆従来の非常食

これまでの災害時用の非常食は3年、5年と長期保存の効く食料を大量に買い込み保存しておくのが常識でしたが、この場合、消費期限切れによる食材の廃棄が問題視されてきました。

さらに、非常食は普段食べべないため、なかなか口に合いません。食事をするだけで、ストレスを感じてしまいます。

#### ◆ローリングストック

非常時だけ食べる非常食が口に合わないというストレスを解消するには、近年注目されている食料の備蓄方法「ローリングストック」が有効です。海外では一般的に使われているこの方法は、その名の通り「食べまわしながら備蓄する」という方法です。つまり、災害時に備蓄している非常食を定期的に食べて、消

費した分を買い足すという行為を繰り返します。その為、常に家庭には新しい非常食が備蓄されているということになります。さらに、従来のように、消費期限が過ぎて食材を廃棄しなければいけないということを回避できるのです。

#### ◆非常食の日常化

ローリングストックは、月に一回定期的に非常食を食べ

るので、普段から食べているものが災害時の食卓に並ぶことになりません。災害時でも、普段食べ慣れない非常食ではないので、安心して食事をとることができます。

基本的にローリングストックでの非常食の消費期限の目安は一年です。一年の消費期限があれば、長期保存の非常食では選べなかった各種レトルト食品、フリーズドライ食品など多彩なレパートリーから選ぶことが出来るので、個人の好みに合わせた非常食の準備が可能で

災害時は調理するための電気やガス、水の供給がストップしていることが考えられます。そのため、主食にするには手間が少なく少量の水で調理できるカップ麺やパックご飯がおすすめです。お子さんがいるとカップ麺に手を出しにくいと感じる方も多いようですが、ノンフライ麺なら油で揚げていない分、少しは安心できるのではないのでしょうか。味の濃さが気になるときはスープの量を調整してみてください。また、災害時に電気が止まってしまった場合、電子レンジで温めるタイプのパックご飯は過熱が難しい場合があるので、ポイルでも温めが可能な商品を選ぶようにしましょう。

#### ◆最低一週間分の備蓄

一般的に「非常食は最低三日分用意」と奨励されていますが、過去の震災時のライフラインの復旧期間から考えると、最低でも一週間分の備蓄が必要です。

阪神・淡路大震災や東日本大震災の時の電気の復旧は一〜四日で比較的早く復旧しましたが、水道は五十%復旧するだけで一週間かかっていました。さらに九十%の復旧は約一ヶ月もかかっています。つまり、ライフラインの復旧期間からみると、生きていく為に必要な水は一週間は使えないという事になります。「公助」による援助が一週間以内にあると思えますが、その援助が一人一人、全員にいきわたる保障はありません。生き残るためには自分自身で一週間乗り切るための備蓄が必要になります。



# 「非常時だけ」ではダメ ～日頃から無駄のない備蓄を～

# 防災新聞

発行者

関西ボロン株式会社

兵庫県丹波市  
山南町草部448-1

電話 06-6467-8333

ホームページ  
bousai-ansin.com



<https://www.facebook.com/ansin.bousai/>



## 地震発生時の行動

～家の中では？屋外では？～

火の始末は？



電車の中では？



劇場やデパートでは？



海岸付近では？

エレベーターでは？



路上、車の中では？



### 【家の中では】

- ・キッチンやバルコニーにいたらすぐにその場から離れる。
- ・本棚やタンス、食器棚が倒れる方向には逃げない。
- ・家具が倒れて逃げ切れなときはダンゴムシのポーズ。

### 【路上では】

- ・頭を保護しながら比較的新しいビルに入る。
- ・空き地や公園など安全性の高いオープンスペースへ避難。
- ・電柱、自動販売機、ブロック塀から離れ、頭上からの室外機の落下に注意する。

### 【運転中は】

- ・ハンドルをしっかりと握り徐々に速度を落とす。
- ・駐車場や空き地を探して車を止め、カーラジオで情報を得る。
- ・周りの状況を見ながら車を置いて避難するかどうか判断する。
- ・車から離れるときは車検証を持ち、連絡先のメモを残す。

### 【エレベーターでは】

- ・揺れを感じたら全ての階のボタンを押して扉が開いた階で降りる。閉じ込められたら非常通報ボタンを押し助けを待つ。

### 【劇場・ホール、デパート・スーパーでは】

- ・カバンなどで頭を保護する。
- ・劇場やホールでは座席の間に身を隠す。
- ・デパートやスーパーではショーウィンドウや商品から離れ、広い空間に退避する。
- ・係員の指示に従い冷静に行動する。

### 【電車内では】

- ・つり革や手すりに両手でしっかりつかまる。
- ・途中で停車しても勝手に車外へ出たり飛び降りたりしない。
- ・乗務員の指示に従い、落ち着いて行動する。

### 【海岸付近では】

- ・津波の到達が遅くても津波警報が解除されるまで戻らない。
- ・津波が到達するまでできる限り高い場所を目指して移動する。

- ①地震警報が鳴る
- ②テーブルに近い人から下に潜る  
(先に潜った人は他の人をテーブルに誘導する)
- ③揺れが収まるまでテーブルの下で待機する
- ④揺れが収まれば、避難すべきかの状況判断

- ①地震警報が鳴る
- ②体を回転させ、ベッドから降りる
- ③中央の脚を掴み、体を引き寄せ
- ④揺れが収まるまで待機
- ⑤避難すべきかの状況判断

- ①地震警報が鳴る
- ②換を開ける
- ③押し入れに入る (前向きか後ろ向きかは各自入りやすい方)
- ④飛来物から身を守る為、自分の体が隠れるまで換を開ける  
※完全に閉めてしまうと閉じ込められてしまう恐れあり
- ⑤揺れが収まるまで待機
- ⑥避難すべきかの状況判断

防災新聞が届いたら  
構の下に潜る練習を！



◆場所ごとの行動をおさらいしておく  
地震が発生した時に、私達はどこにいるかわかりません。家の中にもあるかもしれない。車や電車に乗っていることもあるでしょう。休日や買い物や商業施設に出かけているかもしれない。上の図では、地震が発生した時にどのように行動すべきかをまとめてあります。いつでもどこで地震が発生しても落ち着いて行動することができるよう、定期的に確認するようにしておきましょう。  
もちろん、家の中で地震が発生した場合には、スムーズに「構（kamae）」へ避難することができるよう、避難する順番の確認や実際に避難できるかどうかの練習を行うようにしておきましょう。  
日頃の練習を怠らないことが、いざという時に自分の命を守る武器となってくれます。

# 普段使っているものでも、地震時の防寒対策に



## 地震時に役立つ防災グッズ

